

## 群馬県立太田女子高等学校 研究授業レポート

1 時間目 2020 年 11 月 9 日（月）13:15～14:20

身近な消費生活を通じて経済活動や金融の働きについて理解するとともに、金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解をもとに、金融を通じた経済の活性化について考えることを目的とした授業が実施されました。

1 時間目のテーマは「お金を通じてライフプランを考える」です。

「生活設計・マネープランゲーム」を活用し、将来の生活シミュレーションを通して、人生におけるおおまかなお金の流れを理解していきます。

このゲームは、人生には様々な選択があることに気付くとともに、計画性を持って生活していくことが必要であることを体感するアクティブラーニング型の教材です。カードを引くことで、ライフイベント（就職、生活の仕方、結婚、子育て、住居の購入等）とそれに伴う費用や満足度（思い出ポイント）を決めていき、決めた内容をシートに記録しながら振り返りを行っていきます。4～5人1班で行うグループワークで、生徒たちが主体的に考え、話し合いながら進めていく教材となっています。

はじめに先生から、生活設計のポイント（①大人になった自分の姿を想像してみよう ②人生にどんな選択があるかを知っておこう ③10年・20年・30年と長期的な視野で考えてみよう）、マネープランのポイント（①自分の収入をしっかりと把握しよう ②お金の使い方を知っておこう ③生活設計と照らし合わせて、将来の収入と支出を考えてみよう）、密にならない班づくり（机と机の間を空けて班づくりをすること）が伝えられた後、班の中で係を決め、カードを並べ、マネープランシートの使い方を確認し、ゲームが始まりました。

就職をして自立した生活を始める20歳代の体験では、収入カードを引いて収入額を決めた後、税金や社会保険料など非消費支出も記録していきます。非消費支出は自分では使えないお金で、詳細は次時に学習することが先生から伝えられました。

次に、どのような生活をしていくかを決める基本生活支出カードを引き、収支を計算しました。この時点で支出が収入を上まわり、収支がマイナスになっている班がいくつかありました。

その後自動車の購入を決め、20歳代の収支と思い出ポイントを計算しました。計算を進めながら、20歳代の結果を踏まえ、30歳代以降の生活について話し合う様子も見られました。

続いて30歳代の体験では、様々なライフイベント（結婚・子育て・住居の購入・自動車の購入・保険加入の選択・イベント&アクシデント）を経験しながら、それらに必要なお金について学んでいきます。

まず、人生の三大資金について進行スライドで確認しました。住宅資金・教育資金・老後資金の平均的な金額を考えてもらいましたが見当がつかないようで、それぞれの金額を確認した生徒たちからは金額の大きさに驚きの声があがっていました。

人生の三大資金と平均金額を確認した後、結婚カード、子育てカードを引き家族構成を決めていきました。非消費支出は、収入だけでなく家族構成によっても変わります。結婚しなかった班は、結婚した場合の非消費支出と比較する様子も見られました。

家族構成が決まったら、続けて住居の購入について考えます。ここまでの貯蓄額を確認したうえで、家族構成や今後の生活を考えながら、住居の購入（購入か賃貸か、一戸建てかマンションか）、購入する場合の支払い方法（一括かローンか）を話し合っ決めていきました。「返済に困ることも考えられるので、ローンでの住宅購入は慎重に考えないといけない」という意見も聞かれました。

各班の住居選択が決まったところで改めて、ローンの仕組みについてスライドで確認しました。ローンとは後から少しずつ必ず返す約束をして、先にお金を借りて必要な時にお金を使うことができる便利な仕組みであること、お金を借りるためには信用が必要であり、信用のある人の4つのC「Character（人格）」、「Capacity（支払能力）」、「Capital（資産）」、「Control（自己管理）」についても確認しました。

その後、自動車の購入、保険の加入について決めていきました。イベント&アクシデントカードは先生が引きました。全ての班が「自宅が火事」に見舞われましたが、保険で損失分をカバーできた班もあり、人生には不測の事態が起こる可能性があることやリスクへの備えの必要性について理解することができました。

30歳代までの収支と思い出ポイントを計算し、ここまでの人生の振り返りを行いました。

「収入が少なく保険にも加入しなかったので、貯蓄額がマイナスになってしまった」、「働くのが1人で収入が少なく、その中で3人の子育てをするため自動車購入をしないで支出の節約をした」などの感想がありました。

続いて40歳代の人生を体験していきました。40歳代は「人生の見直し」から始まります。転職するかどうか、基本生活支出を見直すかどうかを班で話し合っ決めてううえで、景気によって収入が変動することも体験していきます。

ここで働き方には、会社に勤める「勤め人」のほか、組織に属さず自分の才能や能力で仕事をしてお金を稼ぐ「フリーランス」、自分で事業を起こす「起業」等があることを確認し、30歳代までの貯蓄額や家族構成、自由になる時間と手にすることができるお金等について考えながら、働き方と基本生活支出の見直しをしていきました。

転職するかどうか決めた後、先生がクラス全体の景気を決める「業績カード」を引きました。「大打撃」により全ての班の年収が減る結果となりました。

40歳代の年収と家族構成に応じた非消費支出を記録した後、自動車の購入について検討し、その他の支出額を引いて貯蓄額を計算していきました。続いて保険の加入を検討し、先生がイベント&アクシデントカードを引きました。結果は「盗難被害」でした。30歳代での経験を活かしてほとんどの班が保険に加入していたこともあり、盗難被害による損失をカバーすることができました。

50歳代でも転職の検討を行った後、先生がクラス全体の景気を決める「業績カード」を引きました。今度は「不況に陥る」で、思うように収入を増やすことができない結果となりました。自動車の購入、保険の加入を検討した後、先生がイベント&アクシデントカードを引きました。今度は「インフレにより支出が増える」でした。

50歳代が終了し、60歳定年を迎え退職となりました。ここで転職しなかった班は退職金カードを引き、貯蓄額と思い出ポイントを計算し、黒板に結果を書き出していきました。

### 【各班の結果】

班	貯蓄額	思い出	どんな人生？
1	200 万円	32	借金が続いていたが、退職金でなんとか返済した。
2	1 億 1,350 万円	14	お金は貯まるが思い出がない人生。
3	3,000 万円	18	独身で思い出は少ないがお金は貯まった。
4	3,700 万円	8	お金はあるが思い出はない。
5	4,950 万円	30	山あり谷あり。貯蓄は多い。
6	-1 億 475 万円	44	リスクを冒しすぎた人生。
7	-800 万円	32	車も一軒家もない、盛り上がりのない人生。
8	-3,300 万円	42	借金はあるが、充実した人生。
9	600 万円	25	収入と支出のバランスの取れた安定した人生。

各班の結果が出揃ったところで、先生から本時のまとめがありました。

イベント&アクシデントカードと業績カードを先生が引いた際、アクシデントや不況などのカードが続いたのは、不測の事態に対しどのような準備をしておけばよいか、体験から理解して欲しいという意図があったこと、様々なライフイベントに必要なお金を逆算して準備しておく必要があること、自分の選択によって人生は大きく変わること、価値観は人それぞれなので、自分らしくよりよい人生を送るためにはどうすればよいか、今から少しずつでも考えていって欲しいことが伝えられ、授業は終了しました。

### 【生徒の感想（抜粋）】

- 貯蓄がたくさんあるので老後は安泰だが、60 歳代までの思い出が少なくつまらない人生。
- 50 歳代まであまり良いことが起こらず、結婚や転職もしなかったのでお金は貯まった。  
人生お金が全てではないと思った。
- 20 歳代から 50 歳代は収入に見合った生活をしておらず借金続きだったが、地道に会社員として働き、退職金で借金を返済することができ、思い出ポイントも多かった。人生の中で、いつ、どんなことが起こるか分からないので、先を見据えてお金を蓄えることは大切だと感じた。
- 最初の職業で収入が高かったなので、ほどよく贅沢な暮らしができ思い出ポイントもたまり充実していたと思う。
- 老後に 2,000 万円必要といわれているが、倍以上の貯蓄もあり良い人生だったと思う。



2時間目 2020年11月13日(金) 13:15~14:20

2時間目のテーマは「国民経済における家計の役割を理解する」です。

経済の三主体(政府・企業・家計)のひとつである家計が、社会経済活動の中でどのような役割を果たしているのか、具体的な数字から考えていきます。

先生は、学校近隣のスーパーのチラシを提示しながら本時は「家計」について学んでいくことを伝えました。

はじめに5つの設問に「はい・いいえ」で答え、それぞれの金銭管理能力を確認しました。

「はい」が多いほど金銭管理能力が高いこと、前時の生活設計・マネープランゲームの活動でも体験したように、何にどれくらいお金を使うのか、必要なものか欲しいものか考え選択する重要性が改めて伝えられました。

次に、ある街の様子から「財」と「サービス」について確認しました。

街の中にあるものを財とサービスに分けて行き、財は有形のもの、サービスは無形のものでどちらもお金を支払うことで手に入れることができることが分かりました。

ここで「はじめてのお金の時間授業進行スライド お金を使う ①お金はどこからやってくる？」で、財やサービスを手に入れるために支払うお金は、それぞれの手元にどのようにやって来るのか確認しました。それぞれの手元にやってくるお金は家族が働いて得たお金であり、社会に出たら自分で働いてお金を得て生活していくことになります。

経済の三主体におけるお金と財、サービスの流れについても考えていきました。穴埋め問題に取り組む中で、三主体が密接に関わっていることが理解できたようです。

続いて、「なぜ人は働かないといけないか、何のために働くのか」を考え、ワークシートにそれぞれの考えを記入していきました。「生活するため」、「勤労の義務」、「社会的な立場」など、それぞれが働く意味や目的を考えていました。

- 働くことで収入(お金)を得ることができ、生活できる。
  - 「働く」とは、仕事を通じて社会の経済活動に参加・貢献すること。
  - 社会に出るまでに、自分が提供できる価値を高めることが重要。
- ということ、まとめスライドで確認しました。

次は、初任給から家計管理について考えていきました。

男女別の高卒、高専・短大卒、大卒、大学院修士課程修了の初任給を確認し、「はじめてのお金の時間授業進行スライド お金を使う ②お金はかしこく使おう」で、ひとり暮らしをするにはどのような事にお金がかかるのかを考えていきました。家賃や水道光熱費、食費はすぐに出てきましたが通信費(スマートフォン代)が出てこなかったため、先生から費目として加えられました。費目の目途がついたところで、収入に対する平均的なひとり暮らしの支出割合を考えていきました。円グラフに記載されている割合に合わせ、選択肢から費目を選びます。30%、20%という全体に対して大きな割合を占める費目

は何なのか、悩む生徒が多く見られました。

支出割合と費目を確認した後、「家計」とは「収入」と「支出」のことで、生活するために必要なものには全てお金がかかること、支出の割合は人それぞれ違うことを確認しました。先生からは新型コロナウイルスの影響による家計の変化（収入の減少、支出を削減している費目）についても紹介があり、前時の「生活設計・マネープランゲーム」でも体験したように、不測の事態への備えが必要であることも伝えられました。また、家計の費目のひとつである「貯蓄」に目を向け、「はじめてのお金の時間授業進行スライド お金を貯める ①どうしてお金を貯めるの？」の導入まんがの、自転車購入のための貯金を例に、それぞれが「貯蓄をする理由（目的）」も考えてみました。「将来欲しいものを買うため」や「大学受験や進路費用」などの発表がありました。あるアンケートの結果では、「目的をもってお金を貯めている」、「目的はないがお金を貯めている」を合わせると、約65%の高校生が貯金をしているということ、いちばん多い貯金の目的は「欲しいものを買うため」であること、大人が貯金する最も多い目的は「老後資金」であることが分かりました。

お金を使う支出は収入があってはじめて成り立つこと、限られた収入に見合った支出にするためには「必要なもの」か「欲しいもの」かを考えること、お金には大きく分けて3つの使い方（①生きていくのに必要なお金、②生活を豊かにするお金、③社会や人のために使うお金）があることをスライドで確認しました。

ここまでの学習を踏まえ、実際に「ひとり暮らしのシミュレーション」を行ってみました。月収20万円で1ヶ月の生活を考えていきます。先に貯蓄額とその理由を考え、月収から貯蓄額を引いた残りのお金で生活を組み立てていきます。住居費は先生が準備した群馬県内のアパート3種類からの選択とし、水道光熱費等残りの費目は自由に支出金額を設定できます。思うままに金額を記入していくと、支出合計が収入より多くなったり、予定通りに貯蓄が出来なかったりする生徒もおり、先生から再考を促されていました。

また、収支のバランスを考えて生活をしていても、ケガや失業など不測の事態が発生した場合には予定にない支出が発生します。社会保険料や税金など非消費支出として国に納めているお金で補償される部分はあるものの、個人で備えておく必要性も改めて確認しました。

続けて、様々なデータをもとに働き方について考えていきました。

「正社員・正社員以外の賃金カーブ」、「女性の労働力の変化（M字カーブ）」、「非正規雇用比率の推移」、「共働き等世帯数の推移」のデータから、（1）正規雇用・非正規雇用のメリット・デメリット、（2）非正規雇用が増加することで懸念されること（財政面・社会面・景気面）、（3）雇用形態の変化にはどのような社会背景が考えられるかについて、3分間個人で考えた後班になり、それぞれ意見を出し合いながら考えをまとめていきました。「非正規雇用は給与が低いので欲しい物を買えない。その結果、経済に悪影響が出るのではないか」、「女性も正社員で働く人が増えた結果、少子化になっているのではないか」など、提示されたデータ以外にも日々見聞きしている情報も持ち寄りながら課題に向き合う様子が見られました。

各班の意見がまとまったところで、ひとつずつ確認をしていきました。

(1) 正規雇用・非正規雇用のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
正規雇用	<ul style="list-style-type: none"><li>・収入が多い</li><li>・福利厚生、社会保険制度が充実している</li><li>・社会的な信頼性が高い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・会社の業務命令が優先</li><li>・転勤・転属などもある</li><li>・残業が発生しやすく、自由に使える時間が少ない</li></ul>
非正規雇用	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分のライフスタイルに合わせて働くことができる</li><li>・希望職種を選びやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・収入が正規雇用より低い場合が多い</li><li>・雇用が安定しにくい</li></ul>

「はじめてのお金の時間 お金を使う ①お金はどこからやってくる 補足スライド」で確認しました。

(2) 非正規雇用が増加することで懸念されること 財政面：税入減少による増税、社会面：未婚者増加による少子化（人口減少）、景気面：消費の落ち込みによる景気悪化が考えられます。

(3) 雇用形態の変化にはどのような社会背景があるのかは、医療の発達により、高齢者の労働人口（正社員）の増加、女性の社会進出、グローバル化による外国人労働者の増加が要因として考えられることが分かりました。

最後にここまでの内容を踏まえ、家計における経済活動の役割にはどのようなものがあるか個人で考え、まとめて行きました。

先生からは、それぞれの家計（収入と支出）の状況が社会経済全体に影響することを理解して、日々の消費生活に目を向けて欲しい旨が伝えられ、授業は終了しました。

【生徒の感想（抜粋）】

- 自分の費用を稼ぐだけでなく、財政や社会、景気などのためにも働いている。医療の発達や女性の社会進出、高齢者増加などを背景に、雇用形態も変わってきていることが分かった。
- 自分の生活の中での支出しか考えていなかったが、社会や経済のことを学び、税金や貯蓄など将来のために必要なお金はたくさんあることが分かった。これから少しずつでも社会のことに目を向けて、将来の自分の生活を見つめていこうと思った。
- 給料から差し引かれるお金の種類について知ることができた。自分の家計を管理することで、どのような経済活動をしているのかが分かる。経済について身近に感じる事ができた。お金について学ぶ機会があまりなかったので、学べて良かった。これからの生活に生かしていきたい。



3時間目 2020年11月19日(木) 10:10~11:15

3時間目のテーマは「消費生活と流通・問題について理解する」です。

安心・安全でよりよい消費生活を送るにはどうすればよいか、日々の消費行動から考えていきます。

はじめに、日々の消費行動について振り返りをしました。

「最近購入した物と、その際の決済手段」、「どのようなカードを使って財やサービスを購入しているか」を考え、ワークシートに書き出していました。「コンビニエンスストアでおにぎりを現金で購入」、「コンビニエンスストアでノートを購入する際、ポイントで支払いを行った」など、現金以外の決済方法を活用している生徒もいるようです。

また、現金の代わりにするカードについては、「PASMO」や「Suica」など交通系電子マネー、「WAON」や「nanaco」など流通系電子マネーの認知度が高く、日々の消費行動の中でも決済方法として活用している様子が伺えました。

ここで改めて、お金には「見えるお金(現金)」と見えないお金「電子マネー」があること、電子マネーを使う時には「上限を決めて使用する」、「残高に気を付ける」こと、電子マネーの仕組みを「はじめてのお金の時間授業進行スライド お金を使う ③キャッシュレスってなに?」で確認しました。

続けて、電子マネーやクレジットカードを利用して現金を使わずに決済を行う「キャッシュレス」について考えていきました。キャッシュレス決済の支払タイミングには、「前払い」、「同時支払い」、「後払い」があります。支払いタイミングによるカードの分類を行い、支払いを後払いにできる理由について班で話し合っただけで考えていきました。

生活設計・マネープランゲームでのローン活用場面で「4つのC」が出てきたことを思い出し、「信用があればお金を借りられるのと同じ理由ではないか」と話し合う班もありました。後払いが出来るのは、金融機関の審査(4つのC)を通過し、お金の支払が確実に出来ることが前提になっている仕組みであることを確認しました。

支払いタイミングとカードの種類、色々な決済方法、高校生が持てるカード、持てないカードについて、改めて「シリーズ教材お金のキホン マナブとメグミのお金のキホンBOOK」21~24頁で確認しました。また、空欄に選択肢を入れ、クレジットカードを使ったお金の流れ(三者間契約)についても理解していきました。

ここまでの学習のまとめとして、現金とクレジットカードのメリット・デメリットについて班で考えていきました。「現金は、買うものとお金のやり取りが見える」、「現金はなければ使わないが、クレジットカードは使ってしまうかもしれない」など、それぞれの意見を出し合いながら考えをまとめていきました。

	メリット	デメリット
現金	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 収支が把握しやすい</li><li>・ 停電などでレジが故障して使用できなくても買い物ができる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ATMなどで出金する手間がある</li><li>・ 手持ちの現金がないと買い物ができない</li></ul>
クレジットカード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 通販などでの支払いが簡単</li><li>・ 現金をたくさん持ち歩かなくてよい</li><li>・ 現金に触れないので衛生的</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分割払いは手数料がかかる</li><li>・ 使いすぎる(借りすぎる)心配がある</li></ul>

続けて、クレジットカードのデメリットのひとつである「使いすぎ（借りすぎ）」による多重債務の危険性について、「シリーズ教材お金のキホン動画 思わぬ収入の減少で多重債務に」の視聴を通して確認していききました。

動画の内容を踏まえ、計画を立ててお金を使っていたとしても、不測の事態で収入が減少してしまい返済が滞ってしまうことがあること、クレジットカードでの買い物は借金をしているのと同じであること、購入金額に応じて決済方法（現金かクレジットカードかなど）を考えて使用することなど、注意点が先生から伝えられました。

授業の後半は、契約と消費者問題について考えていききました。

はじめに、「アパートを借りる」、「クリーニングを出す」、「物を買う」、「お金を借りる」のうち、契約に当てはまるものを考えてみました。正解は4つ全てが契約に当てはまります。それぞれ「賃貸借契約」、「請負契約」、「売買契約」、「金銭消費貸借契約」という契約です。

次に、塾への入会時の会話から、契約が成立した時点を考えていききました。契約書に署名をした時点ではなく、その前の「いかがですか?」、「それにします」というやり取り（当事者双方の意思表示の合致）の時点で成立していたことに生徒たちは驚いていました。先生からは、口約束でも契約が成立すること、約束と契約の違いは、約束は破っても非難されるなどあったとしてもそれ以上のことは追求されないが、契約はある一定の権利や義務が発生し、法律的に強制されることが伝えられました。また、購入商品を自己都合で返品できないことは生徒たちも知っていたようですが、売買契約が成立しているため一方の都合でやめることができないという理由が分かることで、改めて契約とは何かを理解できたようでした。

スライドで

- 契約は、法的な拘束力が発生する約束事である
  - 契約の方式は自由で、口約束でも契約は成立する
  - 契約は申込と承諾というお互いの意思表示が合致した時点で成立する
  - 一度成立した契約は、どちらか一方の都合でやめることができないのが原則
- を改めて確認しました。

次に、クーリング・オフ制度について確認をしていききました。

クーリング・オフ制度とは、ある条件下での契約であれば契約解除できること、クーリング・オフ期間は原則8日間であることは生徒たちも知っているようでした。

条件として決められている契約は、①店舗外での契約（訪問販売、キャッチセールス、電話勧誘販売など）、②連鎖販売契約（マルチ商法、ネットワークビジネスなど）、③特定継続的役務提供（エステ、語学教室、学習塾など）などがあげられ、契約解除の手続きは必ず書面で行うことを確認しました。店舗販売（自分から店舗に行って商品を購入した場合）や通信販売（自分から電話やインターネットで商品購入を申し込み、商品を購入した場合）はクーリング・オフ制度の対象にならないことも併せて確認しました。

ここまでの内容を踏まえ、「安心・安全でより良い消費生活を送るためにはどうすればよいか」をそれぞれが考えてまとめていききました。



### 【生徒のまとめ（抜粋）】

- 自分の持っているお金を定期的に確認するくせをつける。物を買うときはよく考えてから買う。必要ないものを買う契約をしない（簡単に「買う」と言わない）。カード類（電子マネー等）は気をつけて使うようにする。現金とのバランスを考える。
- 物を買うときに本当に必要なものか、支払い方法は正しいか、返品は可能かなど制度を確認して契約をする。  
クレジットカードと現金のバランスが大事。
- クレジットカード等を使う時は、自分の収入や持っているお金をしっかり確認する。また、「もしもの時」のことを考えて、計画的にお金を使う。
- 最近では手元に現金がなくても買い物ができるキャッシュレス決済が普及しているけれど、便利な反面「多重債務」という、使いすぎて支払いが滞ってしまうこともあるので、計画的に使ったり、問題が起きたらすぐに相談したりする。
- クレジットにも現金にもそれぞれメリット・デメリットがある。双方の特徴をよく理解して場合に応じて使い分ける。また、口約束でも契約は成立するため、購入する際は特に気をつける。

最後に、この3時間の金融経済教育を振り返り、学んだことや考えたことをまとめました。

生活設計・マネープランゲームを通じてライフプランを考えるところからはじまり、家計とは何か、国民経済における家計の役割を考え、安心・安全でよりよい消費生活を送るにはどうすべきかを考えることを通して、一人一人がお金との関わり方や消費行動、消費行動と社会経済活動との関係について実感を持って考えることができた3時間授業となりました。

